NCJTA NEWSLETTER
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association
http://www.ncjta.net
第 46 号・2017 年　4 月発行

北加日本語教師会　2017 年春の例会
Sunday, May 7
University of San Francisco

会長挨拶

会長挨拶・お知らせ
永田憲子

春学期も後半になり、皆様お忙しくご活躍のことと存じます。また春の例会の時期が近づいてまいりました。今回は、「日本語授業でのプロジェクト」というテーマで、小学校から大学まで各レベルの先生方に、最新のプロジェクトを発表して頂きます。現代、アメリカの教育機関で「学習者中心の教育」(learner-centered education, student-centered learning) が推し進められています。そんな中で、プロジェクトは、学習者が中心となって進められる活動の一つです。もちろん教師がプロジェクトの課題を与えて指導をします。しかし、プロジェクトを通して、学習者の主体性、創造性、制作技術、発表能力、そして日本語能力を高めることが目標になります。外国語教育において、初級レベルでは基本的な文法事項を教えて、その文型を使って日本語が話せるようになることが重視されます。中・上級ではコンテント・ベースになってくるので、内容（日本文化や歴史）を教えて、それについて日本語で話したり書いたりできることが重要になります。つまり、教師が主体になって効率的に教える部分は不可欠だということです。しかしそれと同時に、学習者中心の活動をうまく組み入れて、両者の利点を統合した授業形態が望まれます。この春の例会で、各レベルで先生方がなさっているプロジェクトを例に、自分の授業にそのようなプロジェクトをどのように利用できるか、学習者中心の教育をいかに取り入れて日本語向上に結びつけられるか、参加者全員の討論・提案の機会になればと思っております。以下が例会のスケジュールです。皆さまお誘いの上、是非お越しください。

５月７日　春例会のプログラム

- 9:30　会費納入・例会登録の受付（お茶・お菓子のサービスあり）
  当日お弁当の申し込みはできません。
- 10:00 – 10:05　会長から開会の挨拶

- 10:05 – 10:40　　神原若枝先生、UC Berkeley
  「UC バークレー日本語プログラム三年生のコースのプロジェクト」
  学期末に発表するためのプロジェクトの準備についてお話します。プロジェクトは、学生が教科書に出て来たトピックに関連したテーマを選んで、研究発表するようになっています。そのプロジェクトについて、現在行っている進め方と今後の指導について検討してみたいと思っています。

- 10:40 – 11:15　　近野靖子先生、 UC Berkeley
  「UC バークレー日本語プログラム四年生のコースのプロジェクト」
  UC バークレー四年生の Reading in Social Science と Reading in Japanese History というコースで行われているプロジェクトについて紹介します。そのプロジェクトでは、読んだり聞いたりしたことをもとに、書く、話すことによって言語技能とコミュニケーション能力の向上を図ること、日本の社会事情や文化について調査し深く考察すること、そして、得た情報に関して自分の国の事情についても考えてみること、自分の意見とそのサポートが分かりやすく説明できること、コース終了後も自立して日本語が学べるようになることなどを目標としています。今回は、慶應義塾大学とのオンラインプロジェクト、ミニ調査プロジェクト、そして、コースプロジェクトなどについて紹介致します。

- 11:15 – 11:50　　菅野尚子先生、Davis High
  「グローバルクラスメート」
  グローバルクラスメートは、NPO と KAC (Kizuna Across Cultures) が主催するプログラムで、日本語を学ぶアメリカの高校生と英語を学ぶ日本の高校生がウェブサイト上のやり取りを通じて、友情を育みながら異文化理解を深めると共に自然に語学力を向上させることを目的としています。例会の発表では、このプログラムが実際にどのように行われているかを皆さんに見ていただき、プログラムを通じて生徒たちが何を学ぶことができたのか等についてお話したいと思っています。

- 12:00 – 1:00　　昼食兼懇親会（アナウンスメントも含む）

- 1:00 – 2:10　　森川知計先生、George Washington High
  "Connecting Dots of Wonders"
  How can teachers create their 'hands-on' projects more meaningful for students' growth? Experiential learning can help students gain skills and knowledge through observation, inquiry, analysis, and reflection. During the presentation, sample ideas for Project-Based Language Learning will be shared, and participants will examine how the curriculum can be connected with all projects in more reflective ways.

- 2:10 – 2:45　　田中理恵先生、Presidio Middle School
  「教室の壁を超えたプロジェクト」
  日本の中学生とのアンケート、手紙、ビデオ交換を通して、日本の中学生の日常生活を知るプロジェクトと、保護者を招いて自分史を発表する８年生の卒業プロジェクトの、二つのプロジェクトについてお話します。

- 2:45 – 3:20　　和氣かおり先生、Rosa Parks Elementary School
  「ローザパークス JBBP 小学校　プロジェクトの取り組み」
  ローザパークス小学校における年間行事の紹介と、その中から、「お正月」や「ひなまつり」などのイベントを取り上げて、どのような活動を行っているのかをお話します。

- 3:20 – 3:30　　会長から新役員の選任報告、閉会の挨拶

北加日本語教師会春の例会
NCJTA Spring Conference

『日本語授業でのプロジェクト』
NCJTA Spring Conference
5 月 7 日(日)@ University of San Francisco
上記スケジュール参照

春の例会は「小学校から大学まで各レベルの日本語教育に取り入れられているプロジェクトの効果的な利用」として 5 月 7 日（日）に開催されます。

- 日時：5 月 7 日（日曜日）　午前 10 時より午後 3 時半まで
- 場所：Kalmanovitz Hall 211, 2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117
- 前もってご登録いただいた参加者には無料でお弁当をお配りいたします。
- 申し込み締め切り：**4 月 28 日（金曜日）**
- 申し込み：添付申し込み用紙に、ご希望のお弁当を明記して、4 月 28 日必着 でお申し込みください。

NCJTA 会計から

NCJTA の会費は一般 15ドル、学生 5ドルです。2017 年度分の会費（2017 年 1 月から12月まで有効）を未納の方は、添付の会員申込書あるいは春の例会申込書をご郵送くださるか、例会の当日お支払いください。昨年までの会費が未納の方も、今年のみの会費で結構です。

尚、春の例会では事前に申し込みいただいた方に、お弁当を無料でお配りいたします。当日のお弁当の申込みは受け付けませんのでご了承ください。添付の例会申し込み用紙を高坂までお送りください。例会の事前申し込みの締め切りは 4 月 28 日、金曜日（必着）です。皆様のご参加をお待ちしております。

（文責：高坂）

NCJTA
2017
春の役員会報告

2017 年　春の役員会報告

日時：2017 年 1 月 29 日 11 時より午後 2 時まで
場所：211 Kalmanovitz Hall, University of San Francisco
出席者：永田、南、高坂、神原、三上、田中、宇田、高松、熊倉、清水、須田（順不同）
議題

- 2016 年秋の役員会の議事録の承認
- 会計報告
  - 1 月 29 日現在会員数 140 名
- 役員任期満了に伴う役員改選について
  - 三名の役員（会計、高校代表、中学代表）が 2017 年秋で任期満了のため、役員公募を実施
- 2017 年春の NCJTA 例会について
  - 5 月 7 日（日）University of San Francisco (USF)にて開催
  - テーマは「日本語授業でのプロジェクト」（小学校、中学校、高校、コミュニティーカレッジ、大学の各々のクラスで使っているプロジェクトについて数名の先生に発表してもらい、そのアイディアを分かち合う。）

- 会員の参加者は昼食お弁当代 15 ドル免除（お弁当は「デリカ」に注文）
- 昼食時に NCJTA の懇談会（役員会は例会の後）

➢ 2017 年春のニュースレターについて

➢ 「第 45 回小学生お話大会」及び「2017 年お茶三昧会議」について

- 北加日米会とサンフランシスコ総領事館主催の「小学生お話大会」（2017 年 3 月 5 日）に NCJTA も共催のため、100 ドルを寄付
- 「2017 年お茶三昧会議」（2017 年 4 月 30 日）に 100 ドルを寄付

（文責：須田）

NCJTA 2016 秋の例会報告

2016 年　NCJTA 秋の例会報告

NCJTA 秋の例会は例年通り、FLANC との合同開催という形で、10 月 29 日（土）に Berkeley City College で開催されました。例会には 28 名の先生方が参加し、10 時から 10 時 50 分までサンフランシスコ州立大学の南雅彦先生の発表、また、午後 1 時 30 分から 3 時 20 分までは、サンフランシスコ大学の永田先生、高松先生、須田先生の共同発表がありました。この二つの発表に挟まれた昼食時には NCJTA 新・旧役員の紹介、会員の自己紹介などが行われました。

南先生発表は「Quandaries about “Can”: Choices for the Potential Form in Japanese」という題で日本語の「可能形」についてでした。日本の雑誌、イーメールなどで実際に使われている言葉を分析しながら日本語の「可能形」についてユーモアを交えて説明してくださり、大変勉強になりました。

午後からのセッションでは永田先生執筆の日本語中級・上級用の教科書「道：日本を探る」について、その新しい「コンテントベース」のアプローチ、教科書の構成、効果的な使い方、学生の反応などを三人の先生が教えた経験を基に発表をしてくださいました。日本語を学習している学生が興味を持ちそうな内容、また美しい写真が豊富な新しいコンテント・ベースの教科書について多くの先生方が興味を示されました。

（文責：清水）

NCJTA からのお知らせ

役員改選のお知らせ

北加日本語教師会の会計、中学代表、高校代表が 2016 年春で任期満了となっております。今回の中学校代表の任期満了を機に、小学校と中学校を合わせて、小・中学校代表の役員を設ける—ことになりました。上記の役員に立候補ご希望、もしくはどなたかを推薦されたい方は添付の用紙にご記入の上、4 月 28 日必着にて下記住所までご郵送ください。

宛先：　Nagata Noriko
Department of Modern and Classical Languages
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080

『言葉の窓』

「読書の薦め」
クラッシェン先生に会う
清水真佐子

サンフランシスコ州立大学の漢字のクラスで教えた S 君が、長い夏休みにどのように日本語の勉強を続ければいいか尋ねるので、「少しだけ上のレベルの読書を」と勧めたことがあります。毎週のクイズで満点以外とったことのないやる気のある学生に、「読めば読むほど

日本語が上手くなる」と思い切りハッパをかけました。しばらくして彼から日本語の絵葉書が届きました。「村上春樹によって書かれた本のおかげで、新しい言葉を頭に詰め込み、文法を学びとりました。」（原文ママ）S 君に留学のための推薦状を頼まれた時、二つ返事で引き受けたことは言うまでもありません。

同じクラスに、高校時代に日本語を独学したという M さんがいました。日本語がすばらしく、漢字を使い正確な文章を書く彼女の学習の秘訣は、ムーミンだとわかりました。学期末の「漢字クラス卒業発表」で M さんは「私はこれで漢字をマスターしました」と、ふりがな付きのムーミン文庫本（講談社）のシリーズを披露したのです。漫画好きな彼女は、ムーミンのかわいいキャラクターに惹かれて文庫を読み始めたそうです。そして、一風変わった生き物たちの交わりと生きる喜びを描いた物語に、夢中になりました。気が付いたら、シリーズを全部読んでいたというのです。

私の限られた経験ではありますが、日本語を学ぶ優秀な学生は、授業とは関係のない日本語の本もよく読んでいるようです。彼らに共通しているのは、母国語でも読書に親しんでいたということです。母国語で読書の習慣がある学生は、外国語も教科書以外の読書を楽しみながら、着実に身につけていくのではないでしょうか。

読書と言語習得の関係は、1977 年に発表されたスティーブン・クラッシェンのインプット仮説に説かれています。第二言語習得分野の大御所クラッシェン先生が 1993 年に出版した「読書はパワー」（日本語版　金の星社）は、強制されない読書が言語習得に極めて効果的なことを、様々な先行研究を挙げて説いています。「自分で選んだ本を夢中になって読むこと以上に、高度な言語能力を獲得する方法はない」と主張するこの本は、言語教育に大きな影響を与えてきました。しかし、先生は決して過去の人物ではありません。長く教鞭をとられた南カリフォルニア大学を引退後も世界中を講演のために飛び回っています。

昨年 10 月末、バークリーのランゲージセンターで、クラッシェン先生の「読書とプロブレムソルビング：高度な言語文学能力および生活能力への簡単かつ唯一の方法」という講演が行われ、直接話を聞くことができました。会場には、バークリーの先生方を始め、サクラメントやサンフランシスコからも多くの教職者や研究者が集まり、急遽、別室でのビデオ放送も行われることになるほどでした。「昨夜、寝る前にベッドで本を読んだ人？」クラッシェン先生の質問から、講演が始まりました。先生は、満場の聴衆が揃って手を挙げるのを見渡し、我が意を得たりとばかりに「手当たり次第本を読む人は、認知症になりにくい！」と続けます。「そのうえ、バイリンガルは認知症発症を遅らせる。」「1 日 3 杯の淹れたてコーヒーも効き目があるらしい、ただしデカフェの効果は不明。」75 歳の先生のユーモアあふれる「読書の効用」に会場が湧きました。

「エジソン、リンカーン、アインシュタイン、そして、ニュートン、だれも学校で勉強なんかしなかった。自分が興味のある本をひたすら読みふけっていただけです。」先生は、誤解を恐れず「頭のいい人は、決して『勉強』しない」と大胆に言い切ります。「本を読む人は、それが興味のある分野なら、新しいコンセプトや事実をわかろうと努力します。だから、読みながら、知らず知らず語彙や文法が身につきます。おまけに、問題解決能力も高まって、まさに『Win Win』というわけです。」子供時代の先生は、漫画やスポーツ読み物に夢中だったそうです。興味を持つテーマを見つけてどんどん本を読んだ経験が、後に言語学者としての研究に生かされたと自説を裏付けます。「ストーリーがあることが肝心。そして、関心のあるテーマに限られた本を次から次へと読み尽くすことによって、言語能力が高まります。」それは、第二言語の場合、単なる「学習」よりも、身につく「習得」をもたらすという自説へ繋がります。つまり、一方的に言語知識を与えられる授業より、自ら進んで行う読書によって、使える言語能力が身につくというわけです。

クラッシェン先生は 40 年来の自説を繰り返しながら、まるで心躍る発見を誰かに話さずにいられないといった調子で語り、聞いている私たちの心をつかみました。私は、まるで親しい人と対話したような気がしました。ですから、11 月初め、ボストンで行われた ACTFL の会場で、クラッシェン先生を見かけた時、懐かしい人に出会ったようで、思わず駆け寄ってしまいました。世界中を講演して回っている先生にはよくあることなのかもしれません。

講演を終えて夕食へ出かけるというお忙しい時にもかかわらず、一緒に写真に収まり、美味しいシーフードについての雑談までしてくださいました。語る人の力なのでしょう。クラッシェン先生に会ってお話を聞き、本で読む以上に、説得力のあるメッセージを受け取ることができました。これからも読書の薦めを「日本語教育」にも「我が人生」にも取り入れていこうと励まされました。

（写真：清水）

日本語教育
関連ニュース

日本語教育関連ニュース

第 45 回小学生日本語お話大会

北加日本語教師会は、 サンフランシスコ日本国総領事館ならびに北加日米会と第 45 回小学生日本語お話大会（45th Annual Japanese Speech Contest for Elementary School Students）を 3 月 5 日にサンフランシスコ・ジャパンタウンの JCCCNC（Japanese Cultural and Community Center of Northern California）で共催しました。悪天候にもかかわらず、ベイエリアの 8 校（Clarendon Elementary School, eLoha Japanese School, Kinmon Gakuen, Little Angeles Japanese School, Pine Japanese Language Afterschool, Rosa Parks JBBP Elementary School, Sakura Gakuen, San Mateo Nippon Gakuen）から参加した 30 名の小学生が、心温まるお話、大好きな行事、自然への関心、将来の夢、家族、日常生活など、さまざまなお話を熱心に話して、日頃の学習の成果を披露してくれました。小学校一年生から三年生までの低学年カテゴリー、四年生から六年生までの高学年カテゴリーに分け、さらに家庭で日本語を話さないグループと、家庭で日本語を話すグループに分けることで審査の公平を期しました。つまり、カテゴリー1（家庭で日本語を話さない小学生 1 年生～3 年生）、カテゴリー2（家庭で日本語を話す小学生 1 年生～3 年生）、カテゴリー3（家庭で日本語を話さない小学生 4 年生～）、カテゴリー 4（家庭で日本語を話す小学生 4 年生～）と 4 分類、各カテゴリー定員 10 名、全体で最大 40 名としました。制限時間は 2 分、日本語をヘリテージ・ランゲージ（継承言語）としてご家庭でご使用のお子さん、日本語を外国語として学校で学んでいるお子さん、いずれにしても、第二言語でスピーチをすることはたいへん勇気のいることで、人前でスピーチをするとなると、その困難さはいっそうのことです。それにもかかわらず、とてもすばらしい

出来映えでした。学校やご家族をはじめ、約 130 名の方々の応援でとても盛会 となりました。本大会に出場するために練習を積んできた出場者の皆さん一人ひとりの健闘を讃えたいと思います。また、審査は、日系地域社会で活躍しているリーダー、日本語の普及に従事している地域の日本語教師に依頼し、入賞者を選出しました。入賞者には賞状と賞品そしてトロフィーを授与、参加者にも賞状、参加賞、そしてトロフィーを授与することで、入賞者と遜色のないようにし、教育的にも配慮しました。出場者や審査員、ご協力いただきました関係者の方々 に心より御礼申し上げます。なお、今回の結果は下記の通りです。

カテゴリー1　家庭で日本語を話さない小学生 1 年生〜3 年生
一等賞: タチキ・タイラー （Grade 3, Clarendon Elementary School) 「日本を学ぶ事はぼくにとってとても大事」
二等賞: トップ穣（Grade 3, Little Angels Japanese School）「三ヶ国語」
三等賞: クラーク・マアット（Grade 3, Clarendon Elementary School）「お料理大好き」

カテゴリー2　家庭で日本語を話す小学生 1 年生〜3 年生
一等賞: ヘファナン美波（Grade 2, Sakura Gakuen）「私が作ったお話」
二等賞: 千石あやめ（Grade 3, San Mateo Nippon）「チャイニーズ　ファン　ダンス」
三等賞: チャンヨンパタナクル爽（Grade 2, Sakura Gakuen）「がんこちゃん」

カテゴリー3　家庭で日本語を話さない小学生 4 年生〜
一等賞: マイアーズ・ダリア（Grade 5, Clarendon Elementary School）「皆が大切にあつかわれますように」
二等賞: クルーガー・アリサ（Grade 5, Clarendon Elementary School）「海を守ろう！」
三等賞: テラス・きこ （Grade 5, Rosa Parks JBBP Elementary School）「わたしの夢」

カテゴリー 4　家庭で日本語を話す小学生 4 年生〜
一等賞: 外村 元（Grade 5, Clarendon Elementary School）「ホビロンをたべてみた」
二等賞: 加藤美幸（Grade 5, Sakura Gakuen）「広島」
三等賞: シュナイダー輝栄（Grade 4, Sakura Gakuen）「宿題計画」

後援団体、関係者、審査員の方々、多くの方々のご協力のおかげで、「第45回小学生お話大会」が無事に開催できましたことを心より感謝申し上げます。

（文責：南）

お知らせ

総領事館
インフォメーション
センターより

総領事館インフォメーションセンターより

２０１８年度国費外国人留学生の募集

4 月中に 2018 年度国費外国人留学生（学部留学生・研究留学生）の募集を開始する予定です。この奨学金では、学費（入学金、授業料等）、毎月の生活費（一定額）及び渡航費が全て支給されます。当館ホームページにて詳細をご確認の上、学生、生徒の皆さまに案内ください。

【学部留学生】
日本の大学に 4 年間在籍。大学進学前に 1 年間の日本語予備教育を受けるため、留学期間は計 5 年間となる。（ただし、最初から高い日本語能力を有する者は、日本語予備教育を省略することが可能）。

【研究留学生】
日本の大学院修士課程、博士課程等に課程を修了するまで在籍。学位取得を目的としない場合は、大学院等において専門の分野について研究を行う（最長 2 年間）

お茶三昧

まだ間に合います！申し込み郵送は 4 月 20 日の消印まで。当日会場での登録もできます。

The 4th *Ocha Zanmai*: 2017 San Francisco International Conference
on *Chanoyu* and Tea Culture
第４回「お茶三昧」
2017 年茶の湯と茶文化に関する
サンフランシスコ国際会議

Sunday, April 30, 2017
Conference 会議: 8:30 a.m.-5:30 p.m.
Reception 懇親会: 5:30-7:15 p.m.
Humanities Building, San Francisco State University
1600 Holloway Avenue, San Francisco, CA 94132

Theme: *Chanoyu* and Zen 「茶の湯と禅」

GUEST SPEAKERS　特別講師
Dr. Isao KUMAKURA, President, Japanese Society for Studies of CHANOYU
Rev. Geppo KOBORI, Ryoukoin, Daitokuji, Kyoto, Japan
Dr. Katsuhiro YOSHIZAWA, Professor Emeritus & Senior Adviser, International Research Institute for Zen Buddhism, Hanazono University

茶の湯文化学会会長　熊倉功夫博士
大徳寺龍光院住職　小堀月浦師
花園大学国際禅学研究所元教授現在顧問　芳澤勝弘博士

HIGHLIGHTS:
The 4th conference will focus on the spirituality of *Chanoyu*.
(1) *Zazen* and Abbot's Talk 座禅と和尚様のご講話
We will start with morning *zazen* sessions led by Abbot Kobori from Ryoukoin, Daitokuji Temple from Kyoto. You may meditate seated comfortably in a chair or bring a cushion to sit cross-legged on the stage of the auditorium. The zazen will be followed by the abbot's talk.

(2) Two Special Lectures and Three Presentations　特別講演と研究発表
Dr. Katsuhiro Yoshizawa's Special Lecture, "Pleasure and Appreciation: Inscribed Paintings as Tea Scrolls"
Dr. Isao Kumakura's Keynote Lecture, "Chanoyu and Zen"
Dr. Janet Ikeda, Washington & Lee University, "One brushstroke: Sen Sotan and Zen"
Ms. Lixia Dong, University of Arizona, "Chan, Poem and the Way of Tea: A Study of Jiaoran's Tea Poems"
Ms. Sara Klingenstein, Harvard University, "As though parting from a loved one: practicing the sense of loss"

芳澤勝弘博士特別講演「茶掛としての画賛ー鑑賞と楽しみ」
熊倉功夫博士基調講演「茶の湯と禅」
ワシントン・アンド・リー大学　リー・ジャネット博士　「一筆もなし：宗旦と禅」
アリゾナ大学　董利霞（ドン・リーシャ）氏「禅と詩と茶道：唐茶僧皎然の研究」
ハーバード大学　クリンゲンスティン・サラ氏　「恋しき人にわかるると知れ」

(3) *Ryurei Temae* and Tea Service by Kanshinkai by Ryoukoin, Daitokuji
大徳寺龍光院欠伸会による立礼点前とお呈茶
During the lunch recess, the members of Kanshinkai from Ryoukoin, Daitokuji, will demonstrate the ryurei-style thin tea (usucha) preparation and serve tea.
Japanese sweets "Saiko" from Wakuden restaurant in Kyoto and tea "Daitsu-an" from Ryoukoin's tea jar will be served to *all* conference attendees, free of charge.
This promises to be your once-in-a-life-time special tea. Please don't miss it!
京都の料亭「和久傳」製のお菓子「西湖」と大徳寺龍光院のお茶壺のお茶「大通庵」をこの機会に是非お楽しみ下さい。

先生の紹介欄

CONFERENCE WEBSITE:
https://mll.sfsu.edu/events/40802-4th-ocha-zanmai
プログラムと登録用紙をダウンロードできます。
Inquiries: mmckeon@sfsu.edu

先生の紹介欄 (アイウエオ順)

加藤貴子先生

- **お名前を教えてください。**
  加藤貴子です。
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  ローザパーク小学校 JBBP です。
  サンフランシスコ市内にあります。
- **日本語教師はいつから？**
  2009 年からです。
- **ご趣味は？**
  テニス、ピアノ、書道です。
- **日本の出身地は？**
  東京都世田谷区です。
- **アメリカに来てから何年ですか。**
  36 年になります。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
  日本語を教えることの難しさを感じると共に、子供達の学ぶ姿勢や吸収力に喜びを感じる日々です。
  小学生の子供達が、将来、日本語を学んだことを何らかの形で生かしていってほしいと思っています。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  どうぞよろしくお願いいたします。

熊倉昭彦先生

- **お名前を教えてください。**
  熊倉昭彦です。
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  サンフランシスコから BART で４０分ほどの小さな町、Pleasant Hill にある Diablo Valley College (DVC)です。
- **日本語教師はいつから？**
  DVC で２００６から非常勤講師として働き、２０１５年に常勤講師になりました。
- **ご趣味は？**
  カリフォルニアに来てから始めた剣道を、有段者の学生さんたちに鍛えてもらいながら下手の横好きで頑張っています。
- **日本の出身地は？**
  栃木県栃木市です。
- **アメリカに来てから何年ですか。**
  カリフォルニアは 2004 年から 13 年ですが、それ以前にいた中西部を含めると合計で 20 年になります。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
  過去いくつか全く別業種の仕事についていましたが、日本語教師という仕事が自分には一番合っていると思います。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  修士をオハイオ州で取ったため、カリフォルニアの日本語の先生方は今の職場以外にはあまり存じ上げません。今回北加日本語教師会にかかわることになったのをよい機会として、皆様と交流を深めていけたら幸いです。

原裕輝子先生

- **お名前を教えてください。**
  原裕輝子
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  パロアルト市　ヘンリー・ガン高校
- **日本語教師はいつから？**
  2005 年にサンノゼ仏教会の日本語学校で日本語を教えたのがきっかけで、子育ての合間に家庭教師やサブをしていました。2012 年にガン高校で長期臨時教師をしたあと本格的に勉強しようと一発奮起、サンノゼ州立大に入学しました。インターンをしながら同大で日本語のシングルサブジェクトを取得、その後幸運なことにまたガン高校で教える機会を得ることができました。
- **ご趣味は？**
  漫画を読んだり、描いたりすること。池坊生け花。日本のドラマをビンジウォッチングすること。
- **日本の出身地は？**
  東京
- **アメリカに来てから何年ですか。**
  23 年
- **仕事について、何か一言お願いします。**
  教師からも生徒からも日々習うことが多いです。「教うるは学ぶのなかば」が座右の銘です。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  先日、CLTA カンファレンスに初めて参加いたしました。そこで現役先生、先輩先生方の日本語を教えることに対する熱意を目のあたりにし、エネルギーをたくさんもらいました。先生方の並々ならぬ努力とご活躍に頭がさがる想いでいっぱいです。今後ともみなさまのご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。

堀部星子先生

- **お名前を教えてください。**
  堀部星子（ほりべせいこ）です
- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  サンタクララ大学で教えています。名前の通り、サンタクララ市にあります。サンノゼの隣です。
- **日本語教師はいつから？**
  大学院生で TA だった時代を除くと、２０００年の秋からです。
- **ご趣味は？**
  作ること。お菓子を作ったり、縫い物をしたり、日曜大工をしたり、というようなことが好きです。アウトドアも好きで、キャンプやハイキングにもよく行きます。
- **日本の出身地は？**
  生まれは奈良県ですが、育ちは名古屋です
- **アメリカに来てから何年ですか。**
  20 年を超えました。
- **仕事について、何か一言お願いします。**
  日本語を教える仕事というのは、知識を与える仕事ではなくて、コーチのようなものだと思っています。学習者と同じ立場に立って、何をしたら日本語が上達するのか、どうしたらもっと上達させたいと思えるのか、を考えるようにしています。
- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  2009 年からサンタクララ大学で教えていますが、今までこの地域での学会やワークショップに参加していなかったので、昨年 10 月にあった FLANC の学会に参加したのを機に、これからはもっと地域でのイベントに参加して、ネットワークを広げたいと思っています。よろしくお願いします。

学校から
の

私の学校でこんなことが……
（先着順）

プレシディオ中学校　田中理恵先生

領事館に杵と臼をお借りして、みんなで楽しく、美味しく、お餅つきをしました。

サンフランシスコワシントン高校
森川ともかず先生
(3 枚)

西条プログラムスタート！　町おこしプロジェクト活動開始！

サンフランシスコアジア美術館での昔話プロジェクト

在サンフランシスコ日本国領事館主催による年賀状コンテストで今年も高校生部門１位と２位！

編集後記

今号もニュースレターへのご協力、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申しあげます。ご意見、ご示唆等、ございましたら、どうぞ下記までご連絡下さい。

神原：wkambara@berkeley.edu
清水：masakoshimizu@sbcdglobal.net

北加日本語教師会連絡先

＜事務局＞

http://www.ncjta.org/
NCJTA. c/o Nagata Noriko
Department of Modern and Classical Languages
University of San Francisco
2130 Fulton Street, San Francisco, CA 94117-1080
E-mail: nagatan@usfca.edu

＜役員＞

会長： Noriko Nagata　永田憲子(同上)

副会長：Masahiko Minami　南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu

書記：Kyoko Suda　須田恭子
University of San Francisco
E-mail: sudak@usfca.edu

会計：Seiko Kosaka 高坂聖子
City College of San Francisco
E-mail: seikogon@gmail.com

メール名簿：Koraku Mikami　三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

ニュースレター編集：Wakae Kambara　神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu

広報: Masako Shimizu O'Bryan　清水オブライアン真佐子
E-mail: masakoshimizu@sbcdglobal.net

フランク連絡員: Masahiko Minami　南雅彦
San Francisco State University
E-mail: mminami@sfsu.edu
Nobuko Takamatsu　高松信子
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

ウェブ担当: Koraku Mikami　三上香楽
Eimei University
E-mail: tmfrontier@gmail.com

＜各レベル代表＞
小学校代表：Kaori Waki　和氣かおり
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: kwaki@sbcglobal.net

中学校代表：Rie Tanaka　田中理恵
Presidio Middle School
Email: rietanaka@gmail.com

高校代表：Tomokazu Morikawa　森川知計
George Washington High School
E-mail: tomokazu28@gmail.com

学園代表：Yoko Uda 宇田陽子
Soko Gakuen
E-mail: yokouda_n@yahoo.co.jp

コミュニティーカレッジ代表： Nobuko Takamatsu　高松信子
E-mail: nobukot@sbcglobal.net

大学代表： Junko Ito 伊藤潤子
University of California, Davis
E-mail: jito@ucdavis.edu